

②7

信太山丘陵・惣ヶ池湿地とその周辺

文・写真 田丸 八郎(NPO法人信太の森FANクラブ代表)

大阪府のレッドリストでホットスポットのAランクに位置づけられている信太山丘陵では、現在、公民協働による「信太山丘陵里山自然公園」(2024年一部開園)作りを行っています。自然公園予定地から100mと離れていないところに「惣ヶ池湿地」があります。20年前に環境庁(当時)の補助を得て木道なども整備され、コモウセンゴケ、絶滅復活種シソクサやヤマトサンショウウオなど20種近い絶滅危惧種が棲息しており、野鳥観察でも利用されているところです。現在、大阪みどりのトラスト協会管理の元、NPO法人信太の森FANクラブが中心となって保全活動を行っているところですが、この土地所有者である泉北水道企業団が2021年3月末で解散することとなり、惣ヶ池湿地を含む泉北水道企業団所有地とその周辺の自然環境の行方が懸念されるところです。惣ヶ池湿地は大阪府最大の湿地であり、絶滅危惧種が多く棲息しており、その環境を守るために現在木道整備を進めていますが、なんとしてもこの自然環境は後世に残したいと思っています。



5月の連休前後は湿地周囲がヤマツツジ、モチツツジで彩られます(2020年5月)



現在新たな木道を設置しています(2020年11月)

②8 あまの街道と陶器山(天野山deコンポステラ〜♪)

文・写真 小西 絹子(あまの街道と陶器山の自然を守る会)

大阪狭山市と堺市を東西に分けて走る陶器山の尾根道は、2007年に遊歩道整備された3kmを特にあまの街道と称している。北は千年の秘仏を有する岩室観音。南は空海も歩いたという全長10kmの参詣道天野街道は南端で女人高野、天野山金剛寺に至る。

あまの街道の堺市側は60m幅で緑地が維持されているが、全市が市街化区域とされた大阪狭山市側は開発が進み、南半分は宅地が街道にまで迫っている。50haのささやかな森ながら92科297種の植生は外来種混入率10%以下という良好さを誇り、100種以上の野鳥、500種以上のキノコが確認されており、キンラン、ギンランの希少種も数か所で確認されている。この5年、オオタカの営巣が見つかり、今年も3羽の雛が巣立った。

木の間越しに朝日に輝くダイヤモンドトレイルを眺め、夕べにはキラキラ輝く大阪湾の彼方に明石大橋が見える。Gポイント広場での早朝ラジオ体操から始まり、3kmの緑のトンネルが続く尾根歩きは春夏秋冬、狭山・堺両市民の快適な身近な自然である。



幼児の遠足



冬景色